



バックナンバーや屋久島国有林における入林申請等は
こちらにあります
http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/



鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1

TEL 0997-42-0331



令和4年度 第2回 屋久島世界遺産地域科学委員会・ヤクシカWG合同 会議を開催（2月16日～17日）

令和4年の第2回世界遺産地域科学委員会とヤクシカワーキンググループ及び特定鳥獣保護管理検討委員会合同会議（以下、ヤクシカWG）が2日間にわたり開催されました。

会議は3年ぶりに鹿児島市会場より集合形式（一部Web会議）により実施されました。

■ ヤクシカWG（2月16日）

会議では、①ヤクシカの生息状況について、②捕獲等の被害防止対策について、③森林生態系の管理目標及びその他植生モニタリング等、④特定エリアの対策（西部地域）⑤屋久島世界遺産地域管理計画に基づく管理状況の評価について各関係機関より報告があり、議論が交わされました。

ヤクシカの生息状況については、一部では個体数が増加しているところもあるが、屋久島全体としては昨年度より減少しているとの報告がありました。

捕獲等の被害防止対策等については、引き続き捕獲していくことが重要で、捕獲の効率性を高めるための具体的な意見などが出されました。

委員からの意見等は、関係機関で今後検討することとなりました。

■ 科学委員会（2月17日）

主な議題は、①令和4年度世界遺産地域モニタリング調査等結果（概要）及び令和5年度世界遺



ヤクシカワーキンググループ会場

産地域モニタリング調査等計画について②ヤクシカWG及び特定鳥獣保護管理検討委員会の報告③屋久島世界遺産地域管理計画の改定について④屋久島世界遺産地域における高層湿原保全対策検討会について等、各機関から説明がありました。

九州森林管理局からは、令和4年度世界遺産地域モニタリング調査の状況及び令和5年度世界遺産地域モニタリング調査等計画について及び屋久島世界遺産地域における高層湿原保全対策検討会における検討状況について説明しました。

各取組についての経緯や結果及び評価、それに基づく今後の対応等について論議されました。

安房小学校にて森林教室を開催（2月10日）

2月10日金曜日、安房小学校5年生(28名)を対象に、屋久島森林管理署と共同で森林教室を実施しました。

まずアイスブレイクとして、植物の名前についてのクイズを行いました。珍しい名前の植物もあり、児童たちもかなり悩んでいるようでしたが、一生懸命答えを考えてくれていました。

クイズの後は、森林の多面的機能や屋久島の林業の歴史等に関する講話を行いました。森林の役割や機能、林業のサイクルや仕組み、屋久島における林業の移り変わりといった説明をしたほか、土埋木の実物を持参し、児童たち1人1人に見たり触れたりしてもらいました。児童たちは集中して話を聴いてくれていた様子で、盛んに意見や感想を述べていました。

講話の次は、林野庁の役職の一つである「森林官」の仕事を1日のスケジュールに沿って紹介しました。こちらも児童たちは熱心に聴いてくれ、「何時に起きれば仕事に間に合うのか」「お風呂はいつ入るのか」等、色々な質問をしてくれました。

その後に、「シカと森林のカード」という遊び

ながらシカと生物多様性について学べるカードゲームを、4班に分かれて実施しました。裏返しにしたカードをめくり、動物や樹木のカードを集めて森を作っていく過程で、ヤクシカの個体数をどう調整するか考えるのが肝心のゲームであり、児童たちは盛り上がりながらも、しっかりどうするか相談し合っていました。最終的に、コジカのみ残した班、オスジカを集中的に排除した班など、班ごとの個性が強く出た結果となりました。

最後に、代表の児童から感謝の言葉をいただき、安房小学校森林教室のプログラムは終了しました。



「シカと森のカード」ゲームに挑戦する児童たち

屋久島主要箇所の2022年雨量データ

観測場所	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
台風襲来回数									1				1
月平均(欠測箇所除く)	205	150	558	438	581	1,102	980	426	1,144	332	521	248	6,684
保全センター (標高 5m)	145	153	268	263	367	951	599	298	803	224	344	263	4,678
宮之浦林道 (標高 460m)	175	133	391	410	491	885	930	349	1,494	420	353	324	6,355
白谷雲水峡 (標高 630m)	235	218	542	529	723	1,172	1,348	396	1,329	473	665	489	8,119
白谷林道220支線 (標高 650m)	197	183	401	— #	207	954	370 #	— #	— #	— #	— #	— #	2,312 #
小杉谷 (標高 680m)	176	166	534	527	781	1,332	1,322	534	1,151	552	661	263	7,999
カンカケ岳 (標高 730m)	128	39	257	230	277	569	538	255	409	77	193	68	3,040
ヤクスギランド (標高 1000m)	307	246	1,258	864	1,216	1,707	588	383	204	475	913	146	8,307
大川林道 (標高 1020m)	247	106	577	553	647	1,002	1,022	487	1,900	115	330	214	7,200
淀川登山口 (標高 1380m)	356	189	1,038	230	631	1,600	1,532	696	1,861	319	710	218	9,380
黒味岳 (標高 1800m)	81	64	311	336	469	844	941	436	1,475 #	— #	— #	— #	4,957 #

※ 台風襲来回数は、南九州に接近した回数 ※ 雨量(mm) ※ #は期間中に欠測のあることを示す。

上記の表は、屋久島に設置している10箇所の雨量計データ2022年分を集計したものです。ただし、欠測のある月は#で示しています。

【年間降水量】最大値(欠測箇所を除く)は、淀川登山口の9,380mm、最小値は永田カンカケ岳の3,040mmで全体の平均は6,684mm(月平均の合計)でした。

【月別降水量】最大値は大川林道の9月期の1,900mmで全体の月別平均で最小は2月の150mmで最大が9月の1,144mmでした。(欠測期間を除く)9月は台風の影響により雨量が増えたものと考えられる。

※この雨量観測は気商業務法第6条1項1の研究のために行う気象の観測となっています。

「次世代の屋久島の森林・林業を守り育てる森林の体験・学習活動」シリーズ ⑤

～人と森をつなぐ～ 千年の屋久杉の種から育った3歳の苗

ウッドショップ木心里 代表 鹿島裕司 子育て支援tetote 代表 日高ゆかり

安房保育園の園児が2月16日、有限会社有水製材所の有水大吾氏の指導のもと、植栽体験を行った。

参加したのは安房保育園の年長児の14名と保育士3名。森林・林業への興味や関心が芽生えてきている子ども達と山の神へ挨拶をし、入山。園児らは「杉のあかちゃんを植えるんだ。」と目を輝かせて現場まで歩いた。

その後、千年生きた屋久杉から球果をとり、3年かけて苗を育てていることや穴を掘る機械、苗の植え方について有水大吾氏が丁寧に説明した。

「40年後、活用期を迎えるまで、木がどのように成長していくのか。また、この森に見に来てほしい。木が成長していくには、人の手が必要。」と林業への思いを話した。

次の世代の子ども達に島の森を引き継いでいきたいと願う、青年林業士の思いに応えるように「大きくなってね」と園児らは自分が植えた苗に語りかけ、現場を後にする姿が印象的だった。

次の活動は、木工体験。屋久島で生まれ育った様々な樹種にふれてもらう体験を予定している。40年後、また子ども達と一緒に成長したこの木々に会いに行きたい。



「大きくなってね」と声をかける園児達



杉のあかちゃん 3歳の苗



苗の植え方を教える有水大吾氏

車両通行規制がはじまります！

3月1日から、縄文杉荒川登山口車両乗り入れ規制が始まります。屋久島の自然環境や快適な利用環境を守るため、みなさまのご協力をお願いします。

屋久島には固有の動植物が数多く生息・生育しており、自然景観も豊かな島です。動植物の捕獲や採取、むやみに登山道以外の箇所へ踏み入らないで下さい。また、登山道の荒廃や植物の保護のためにもゴムキャップの着いたストックを使用下さい。

国内に限らず諸外国からも多数の観光客が来島されます。みんなで登山上のマナーとルールを守りましょう！

高層湿原植生状況モニタリング調査及び保全対策の検討（令和2年度）

花之江河における試行的保全対策

◆目的・調査地点及び方法

河床低下や流路の拡幅が生じている花之江河において、緩やかに土砂等を堆積させて河床低下の進行を回避すること、及びその効果的な方法を検証するために、昨年度に丸太木柵工の設置による試行的対策を実施した(図1)。設置箇所は河床低下が進み、レキが表面に現れている流路を対象とした(図1の黒線)。ドローン撮影で取得した令和元年度と令和2年度の標高データを用いて、設置前後の勾配変化を調査した。

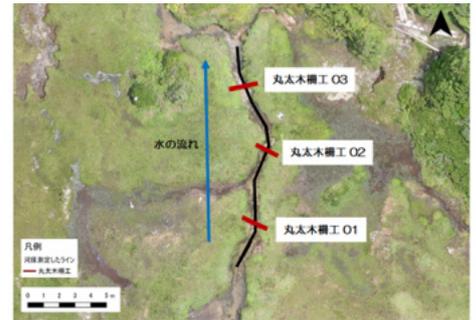


図1 試行的保全対策(丸太木柵工)の設置箇所

◆調査結果

・丸太木柵工上流側では緩やかな土砂堆積が見られた。これは、湿原上流側から浸食された土砂が湿原内へ運ばれており、相当量の土砂が動いていることがわかった。丸太木柵工下流側については、水たたき部や側壁への浸食は見られず、緩やかに水が流れていた(図2)。

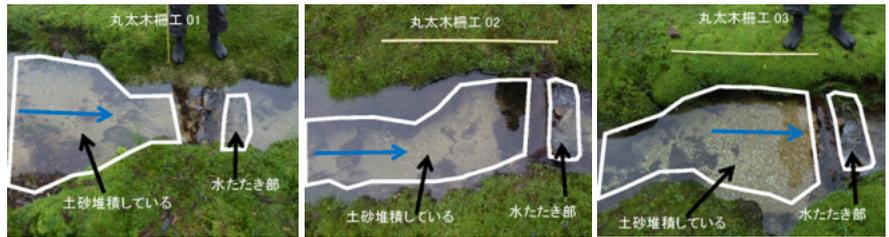


図2 丸太木柵工の土砂堆積状況

・2年間分の河床標高を比較すると、令和2年度の丸太木柵工上流側の河床勾配が緩やかになった。

・水路勾配の短期的な変化は、ドローン撮影で得た標高データから把握できることから、次年度以降も土留め工の効果及び検証を行う際には、同様の標高データを活用する。

グリーンサポートスタッフ（GSS）巡視記録より ～花と景色～

今月号より、当保全センター職員のGSSが森林生態系保全地域を巡視する中で見かけた花や景色を季節に合わせて紹介します。

ウラシマソウ（濃紫色が花[仏炎苞*]、橙色が実）



ウラシマソウは1月25日、蛇之口滝へのパトロール中に見かけました。ウラシマソウの名前は、花の先が釣り糸のように伸びて、浦島太郎が釣りをしているように見えることから名づけられているようです。トウモロコシのような橙色の部分が実で、花と一緒に見られるのは少ないようです。

*仏炎苞(ぶつえんぼう)…花序を包む葉が大きく変化したもの

オオゴカヨウオウレン



オオゴカヨウオウレンは2月6日、小杉谷へのパトロール中に見かけました。

屋久島の固有種で、ヤクスギランドや白谷雲水峡などで岩や樹皮に苔と一緒に生えているのをよく見かけます。花びらや葉は普通5枚だそうですが、写真は6枚の花びらが付いているようにも、1枚がハートにも見えます。